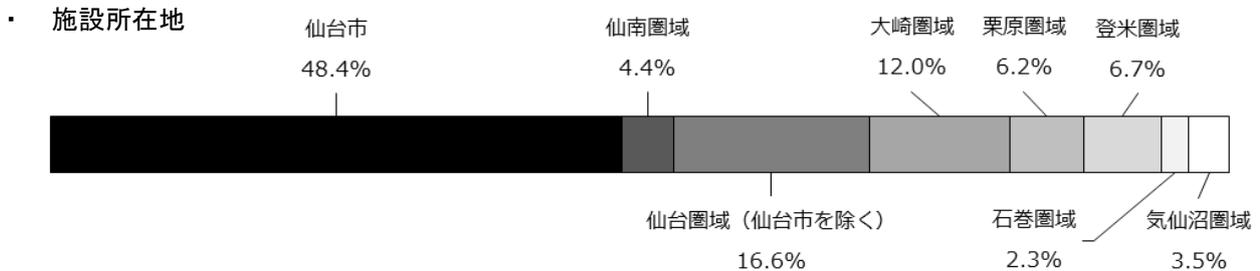


幼児教育に関わる実態調査結果（対象者：園長・所長，教員・保育士等）

○ 回答状況

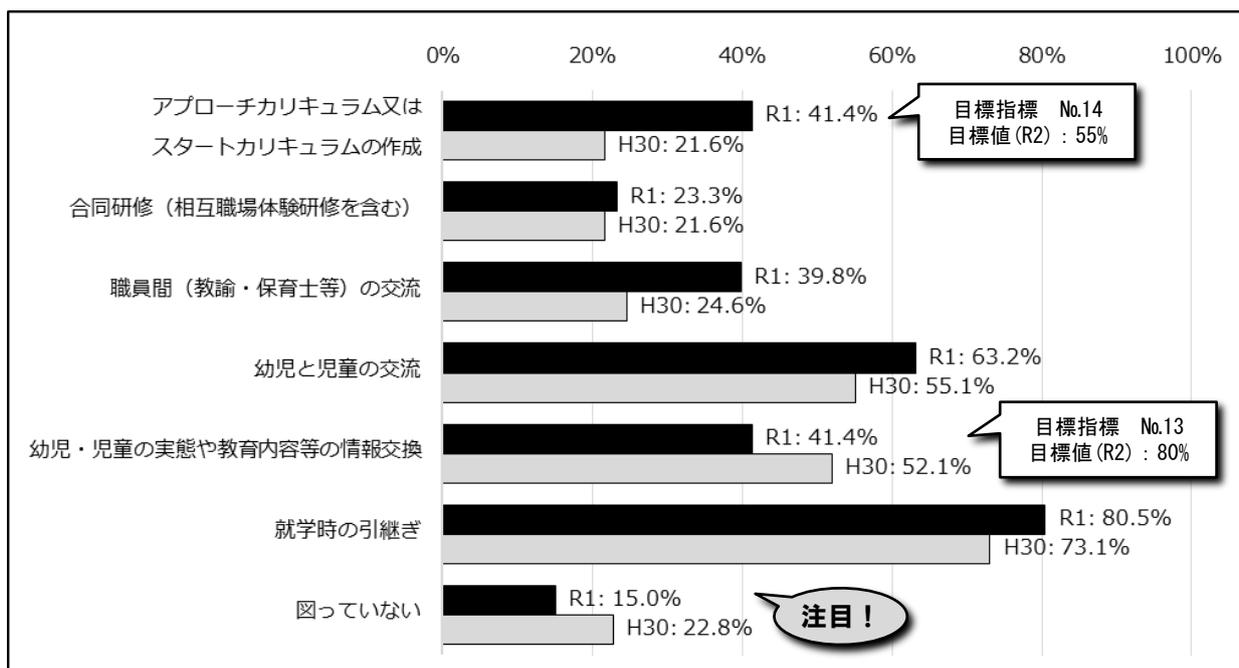
- ・ 回答数 661件（園長・所長：133件，教員・保育士等：528件）
- ・ 施設別件数 幼稚園：184件（37施設），保育所：334件（64施設），認定こども園：46件（8施設），認可外保育施設等：97件（24施設）



- ・ 回答方法 スマートフォン：60.2%，パソコン：39.8%

1 保・幼・小連携について【園長・所長のみ回答】

1-1-1 小学校とどのような内容の連携を図っていますか。（該当するもの全て選択）



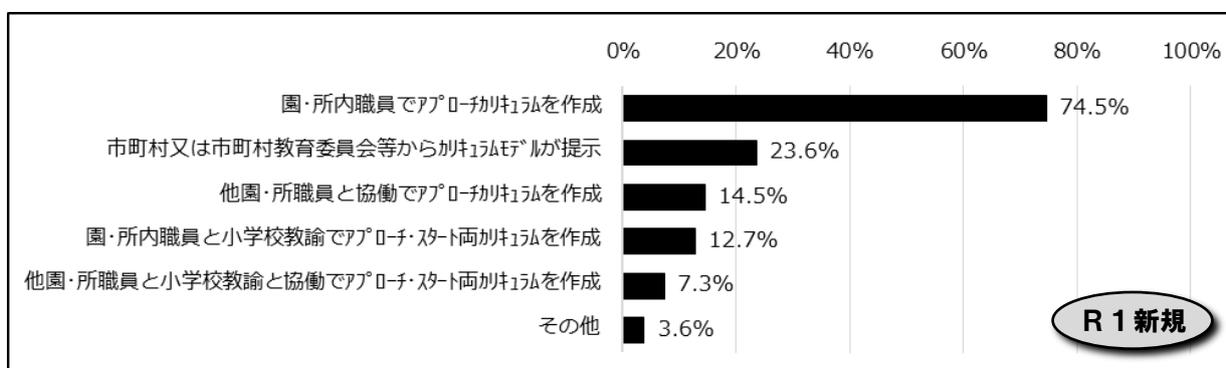
（今年度の小学校との連携状況の施設類型別内訳）

連携内容	国公立幼稚園	私立幼稚園	公立保育所	私立保育所	公立認定こども園	私立認定こども園	認可外保育施設等
カリキュラムの作成	80.0%	23.5%	54.1%	29.6%	100.0%	71.4%	4.2%
合同研修	60.0%	41.2%	18.9%	11.1%	0.0%	28.6%	0.0%
職員間の交流	85.0%	58.8%	40.5%	14.8%	100.0%	57.1%	8.3%
幼児と児童の交流	100.0%	70.6%	70.3%	59.3%	100.0%	100.0%	8.3%
情報交換	80.0%	23.5%	54.1%	29.6%	100.0%	71.4%	4.2%
就学時の引継ぎ	100.0%	100.0%	89.2%	81.5%	100.0%	85.7%	33.3%
図っていない	0.0%	0.0%	8.1%	14.8%	0.0%	0.0%	54.2%

【概要・考察】

- 小学校との連携を「アプローチカリキュラム又はスタートカリキュラムの作成」と答えた割合は、昨年度から19.8ポイント増加した。
- 改善傾向がみられる要因として、要領や指針等において、保・幼・小の接続や連携について明記されたこと等が考えられる。県教育委員会が作成し、県内の全幼児教育関連施設に配付した「宮城県版 保幼小接続期カリキュラムの実践に向けて」の活用状況も調査する必要がある。
- 小学校との連携を「情報交換」と答えた割合が、昨年度から10.7ポイント減少した。
- 昨年度と比較して、「情報交換」以外の連携内容を答えた割合は増加したことから、小学校との連携が単なる「情報交換」だけでなく、幅広い連携へと深化してきていると考えられるが、「情報交換」の必要性についても、引き続き啓発する必要がある。
- 一方で、小学校との連携を「図っていない」と答えた割合が、昨年度から7.8ポイント減少したが、理由や状況を調査し、改善を図る必要がある。

1-1-2 「1-1-1」で「アプローチカリキュラム又はスタートカリキュラムの作成」を選択した方は、カリキュラムをどのように作成していますか。（該当するもの全て選択）



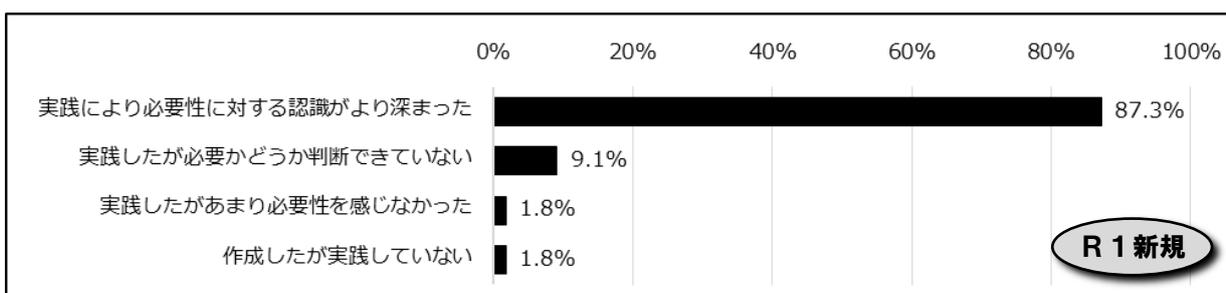
【その他の主な内容】

地域の幼保小ネットワークで作成している 等

【概要・考察】

- 「園・所内職員でアプローチカリキュラムを作成」している割合が最も高かった。
- 次いで、市町村等から「カリキュラムモデルが提示」されている割合が高かった。市町村等から提示されることで幼児教育から小学校教育への一体的な取組が可能になることがみえてくる。
- 積極的な取組が行われているものの、小学校教諭と協働で作成している割合が低かった。

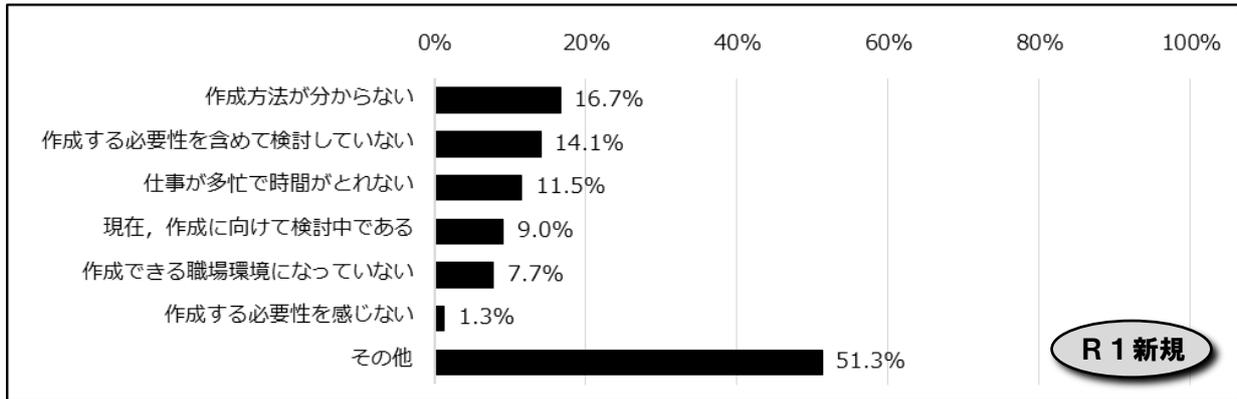
1-1-3 「1-1-1」で「アプローチカリキュラム又はスタートカリキュラムの作成」を選択した方は、作成したカリキュラムの実践を通じた園・所内全体での成果をお答えください。



【概要・考察】

- 作成した園長・所長のうち87.3%が、実践によりカリキュラム作成の「必要性に対する認識がより深まった」と答えた。
- 一方で、「実践したがあまり必要性を感じなかった」と答えた割合が1.8%だった。カリキュラム作成の意図が、子供の学びや発達の連続性を意識した取組であることを啓発する必要がある。

1-1-4 「1-1-1」で「アプローチカリキュラム又はスタートカリキュラムの作成」を選択しなかった方は、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



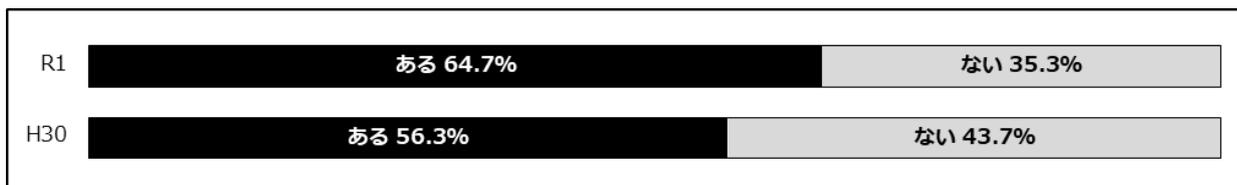
【その他の主な内容】

0～2歳児の未満児保育施設のため、カリキュラムは作成しているが小学校との連携は図っていないため 等

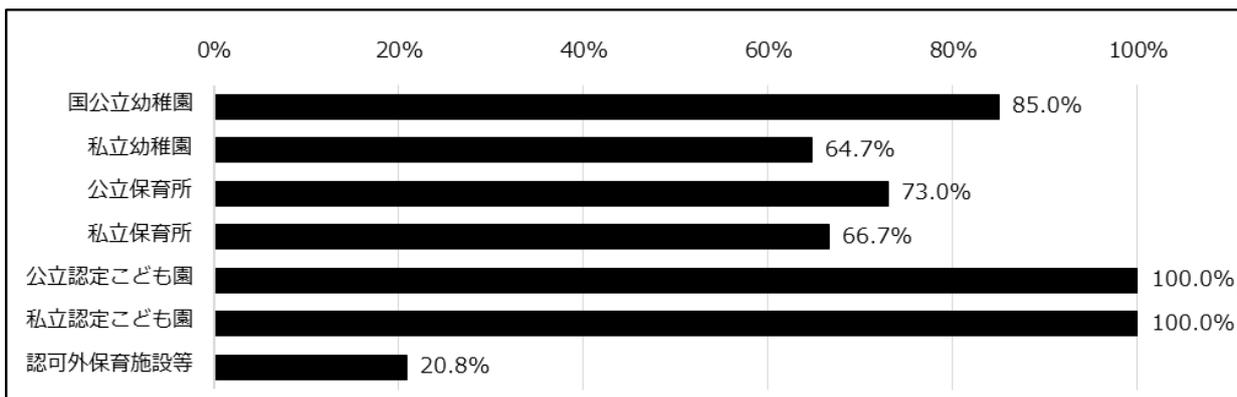
【概要・考察】

- 「その他」を選択した園長・所長の理由の多くが、「0～2歳児の未満児保育施設のため、アプローチカリキュラムを作成していない」だった。
- アプローチカリキュラムは、小学校への接続を意識したカリキュラムであるため、5～6歳児が中心とはなるが、乳幼児教育を見通した取組であることを啓発する必要がある。

1-2 小学校との連携を図るための連絡協議会等の連携組織がありますか。



（今年度「連携組織がある」と回答した施設類型別内訳）

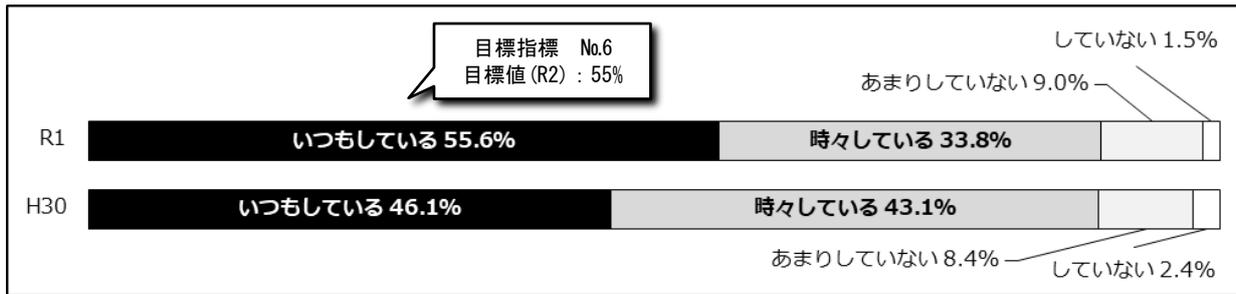


【概要・考察】

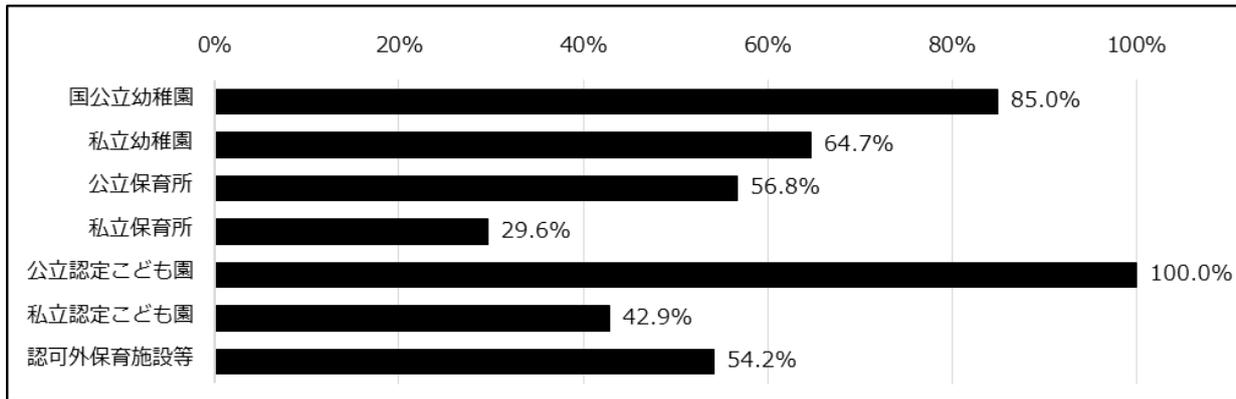
- 小学校との連携組織が「ある」と答えた割合は、昨年度から8.4ポイント増加した。
- 小学校区内に少数の幼児教育施設しかない場合は、連携組織がなくとも幼児教育施設と小学校が個別に連絡を取り合い、連携が図られている事例もある。

2 基本的な生活習慣について【園長・所長のみ回答】

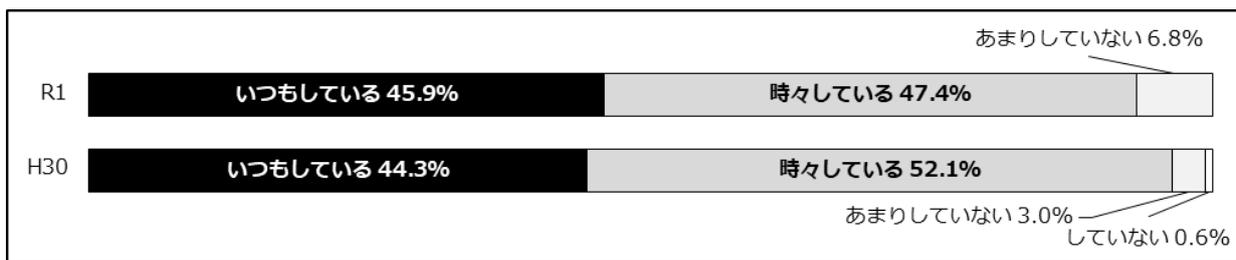
2-1 幼稚園や保育所等の活動において「はやね・はやおき・あさごはん」運動などの基本的な生活習慣の確立のための取組をしていますか。



(今年度「いつもしている」と回答した施設類型別内訳)



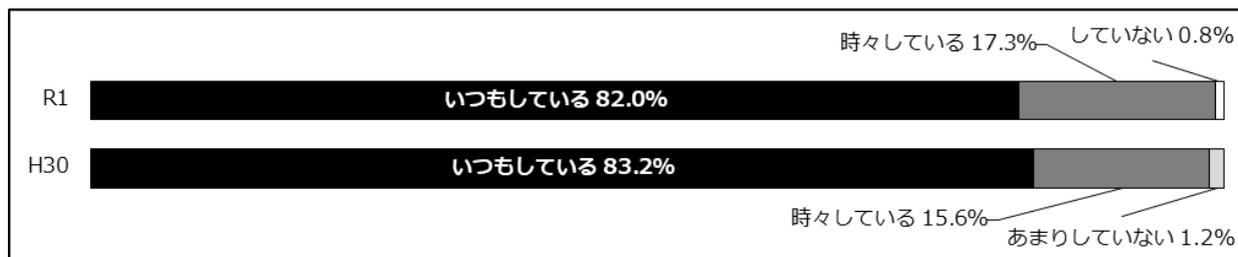
2-2 基本的な生活習慣の確立のために、家庭への啓発をしていますか。



【概要・考察】

- 基本的な生活習慣の確立に向けた取組を「いつもしている」と答えた割合は、昨年度から9.5ポイント増加し、目標値を超えており、多くの施設で日常的に意識して取り組まれていると考えられる。
- 一方で、取組を「あまりしてない」、「してない」と答えた割合が10.5%だった。子供の成長にとって重要となる睡眠や食事について、日々の保育や保護者支援で積極的に働きかけてもらえるように啓発する必要がある。
- 家庭への啓発を「いつもしている」と答えた割合は、昨年度から1.6ポイント増加した。

2-3 外遊びや運動など体を動かす習慣の確立のための取組をしていますか。

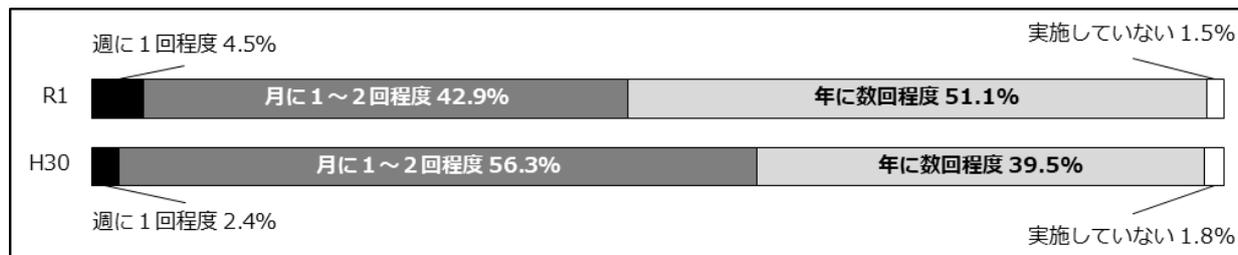


【概要・考察】

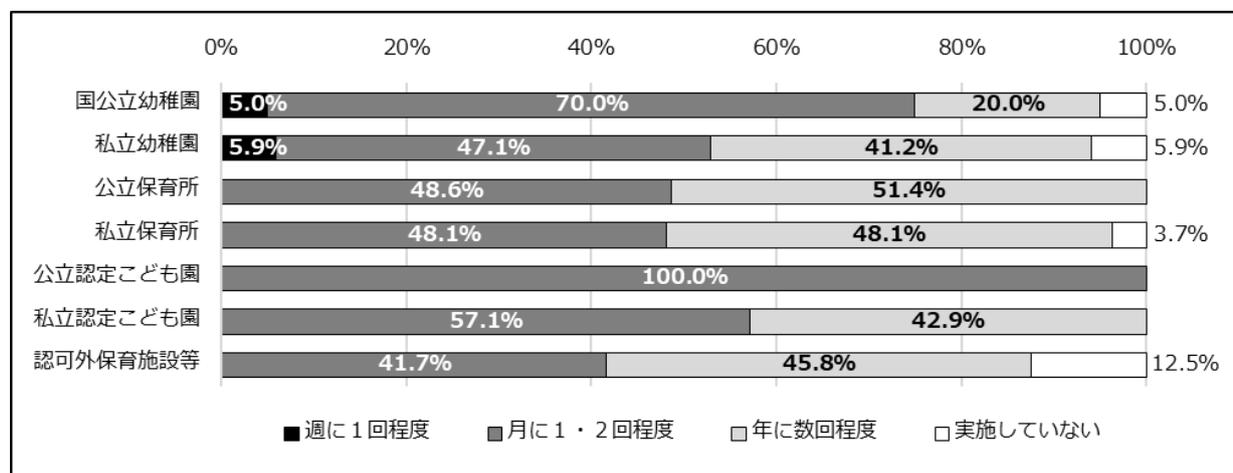
- 体を動かす習慣の確立のための取組を「いつもしている」と答えた割合は、昨年度から1.2ポイント減少した。
- また、取組を「いつもしている」、「時々している」と答えた割合は、昨年度から0.5ポイント増加したため、体を動かす習慣が着実に広がっていることがうかがえる。

3 園内研修について【園長・所長のみ回答】

園内研修の頻度についてお答えください。



(今年度の園内研修の頻度の施設類型別内訳)

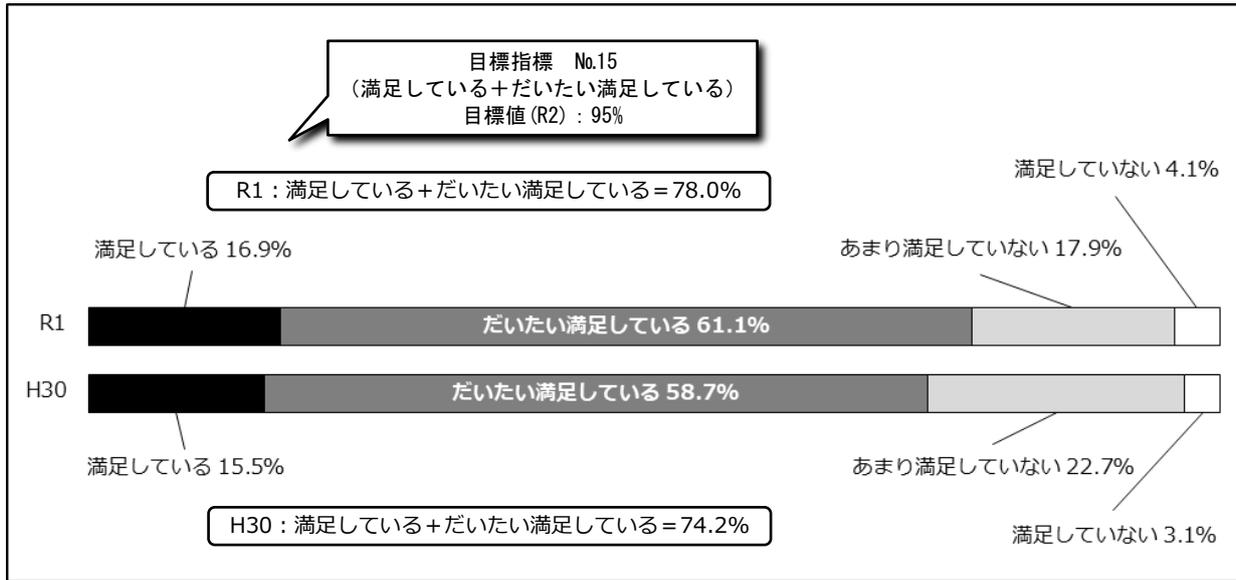


【概要・考察】

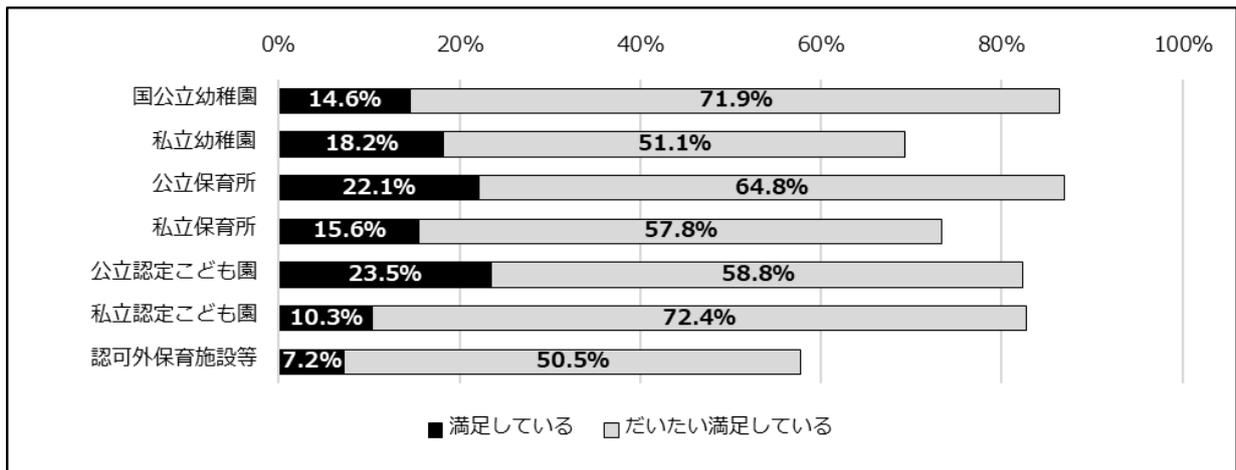
- 園内研修の頻度が「週に1回程度」と答えた割合は、昨年度から2.1ポイント増加したが、「月に1~2回程度」と答えた割合が13.4ポイント減少した。
- また、園内研修の頻度が「年に数回程度」と答えた割合が、51.1%であり、継続的かつ定期的な園内研修の取組は難しい状況であることがうかがえる。
- 園内研修を「月に1~2回程度」行っている施設の研修計画や取組の効果について調査し、好事例として情報を収集し提供していきたい。

4 研修について【全員回答】

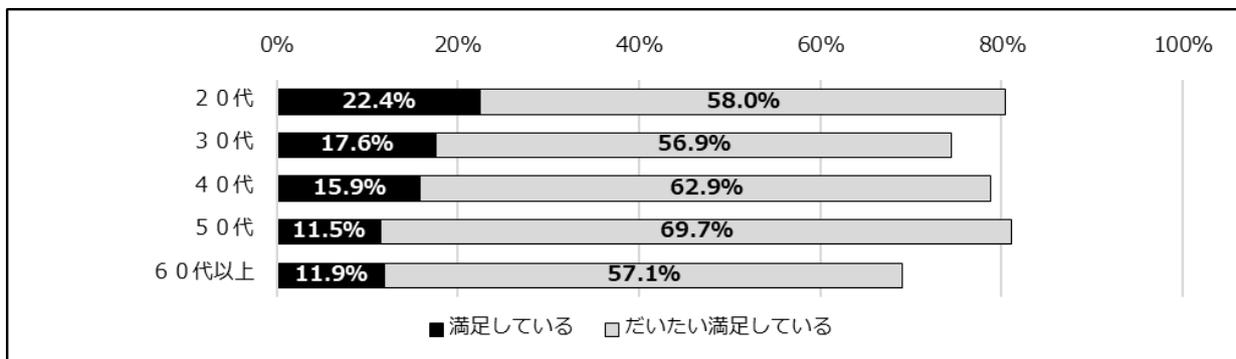
4-1-1 現在の御自身の研修状況についてお答えください。



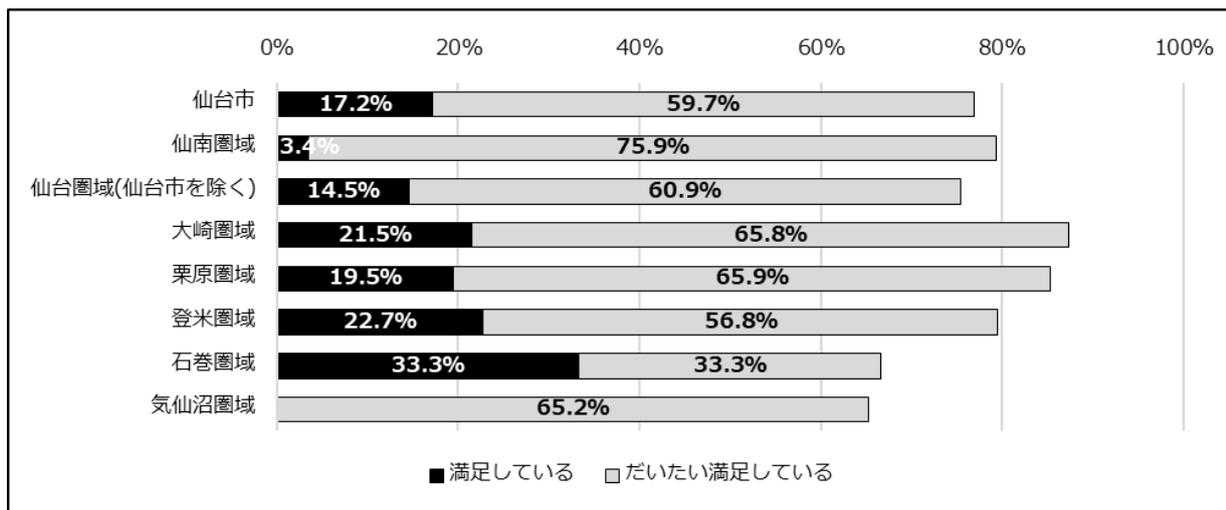
(今年度「満足している」「だいたい満足している」と回答した施設類型別内訳)



(今年度「満足している」「だいたい満足している」と回答した年代別内訳)



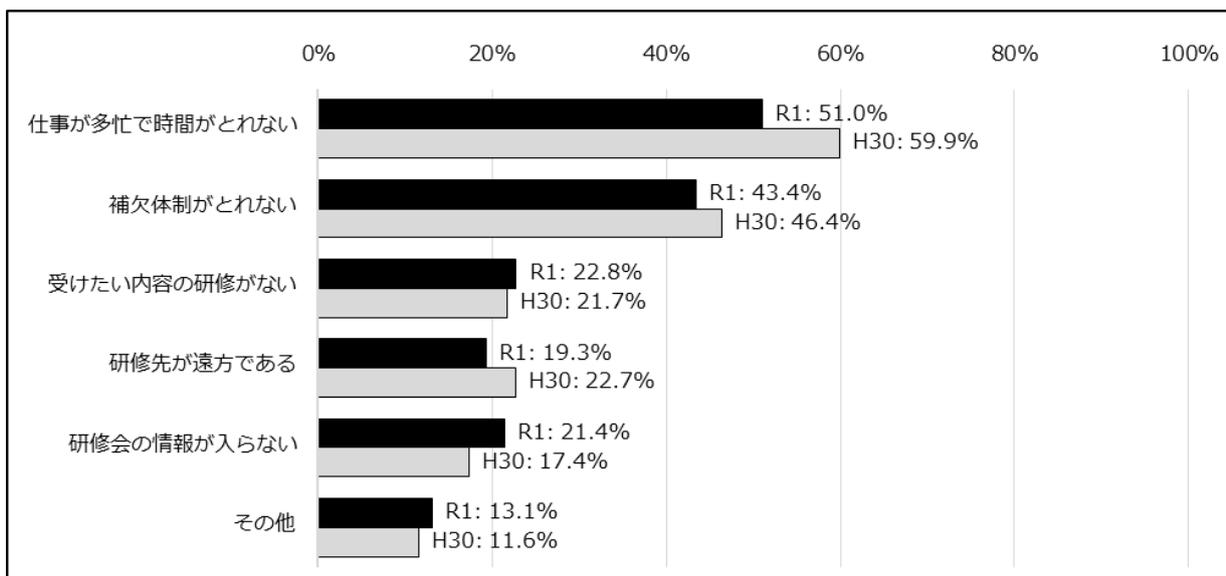
(今年度「満足している」「だいたい満足している」と回答した圏域別内訳)



【概要・考察】

- 現在の研修状況について、「満足している」、「だいたい満足している」と答えた割合は、昨年度から3.8ポイント増加した。
- 施設類型別では、認可外保育施設等は「満足している」、「だいたい満足している」と答えた割合が、57.7%にとどまった。
- 年代別では、年代が上がるごとに、「満足している」、「だいたい満足している」と答えた割合に減少傾向がみられる。
- 圏域別では、気仙沼圏域の「満足している」の回答がなかったが、要因の一つとして、研修先となる場所が遠方であることが考えられる。

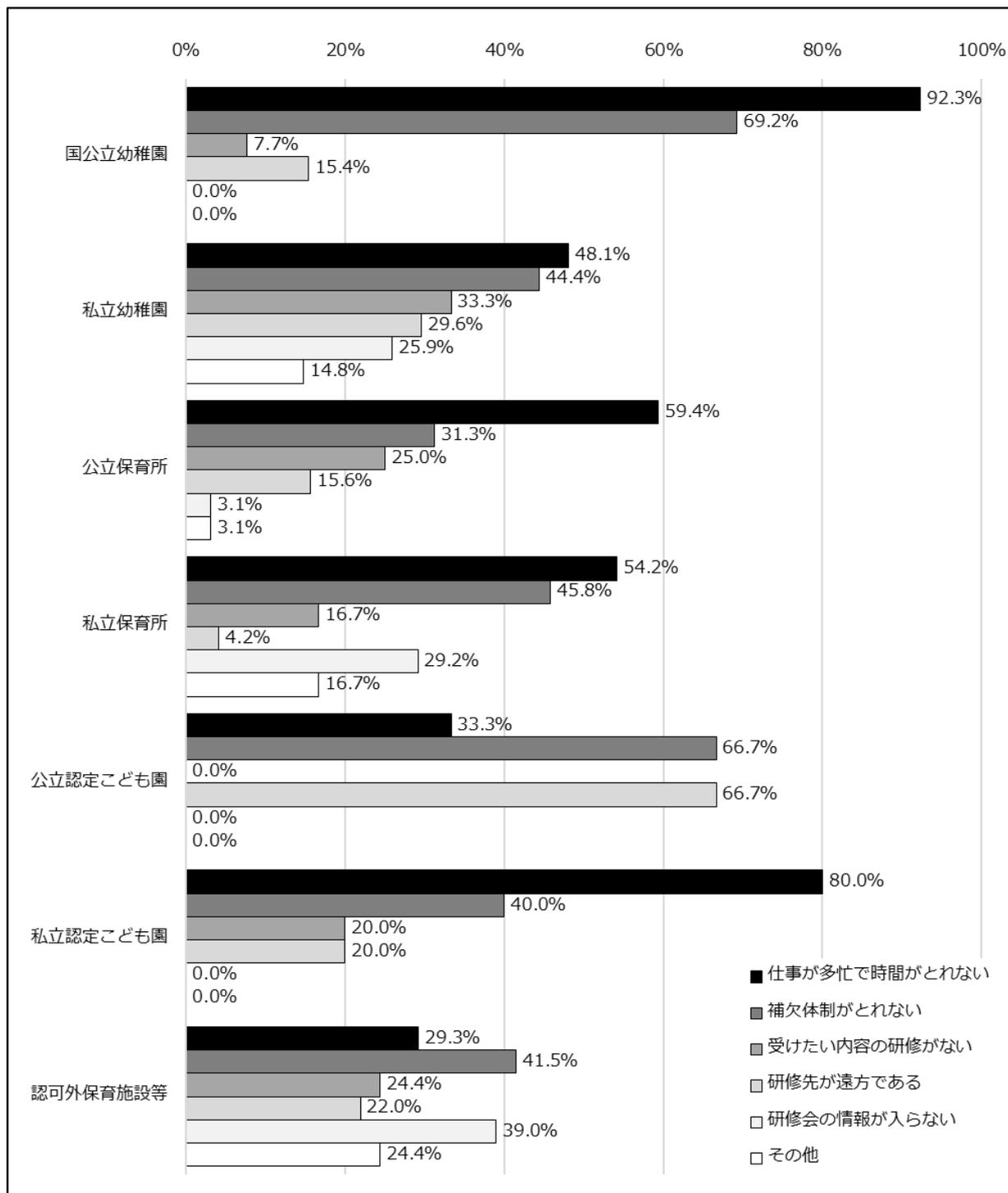
4-1-2 「4-1-1」で「あまり満足していない」又は「満足していない」を選択した方は、その理由をお答えください。(該当するもの全て選択)



【その他の主な内容】

競争率が高く受講できないため、研修会受講者を所属長に決められてしまうため、勤務としてみなされないため参加しづらい 等

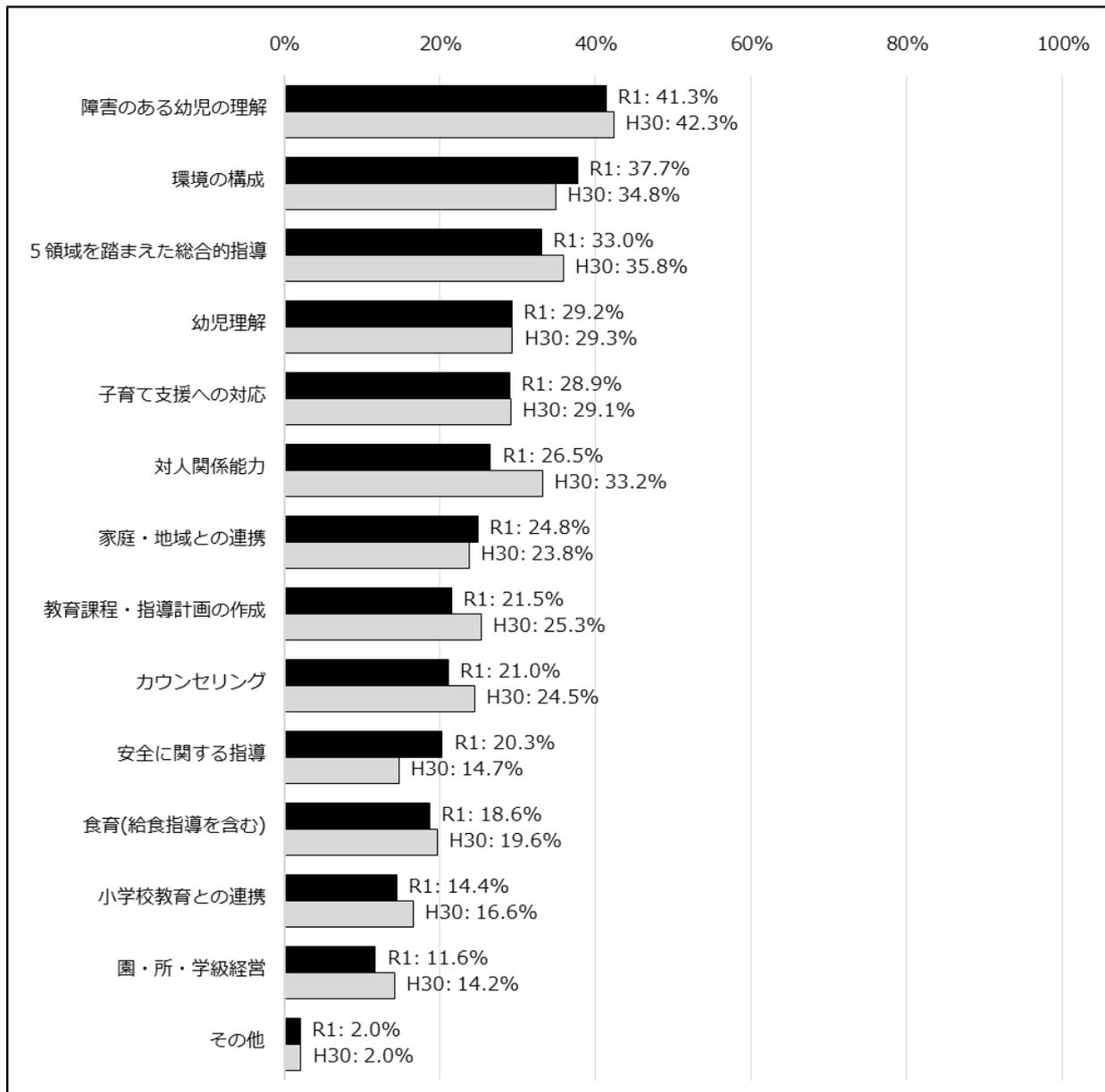
(今年度の「あまり満足していない」又は「満足していない」理由の施設類型別内訳)



【概要・考察】

- 昨年度と同じく「仕事が多忙で時間がとれない」を理由として答えた割合は最も高かったが、数値が昨年度から減少した。
- 「仕事が多忙で時間がとれない」、「補欠体制がとれない」を理由として答えた割合が高かったことは、職員が限られており、研修会に参加できる条件が整いにくいことが考えられる。
- 一方で、施設類型別で、他施設と比較して認可外保育施設等で「研修会の情報が入らない」と答えた割合が高く目立ったため、周知方法について検討する必要がある。

4-2 今後、受講したい研修会等の内容についてお答えください。（該当するもの3つ選択）



【その他の主な内容】

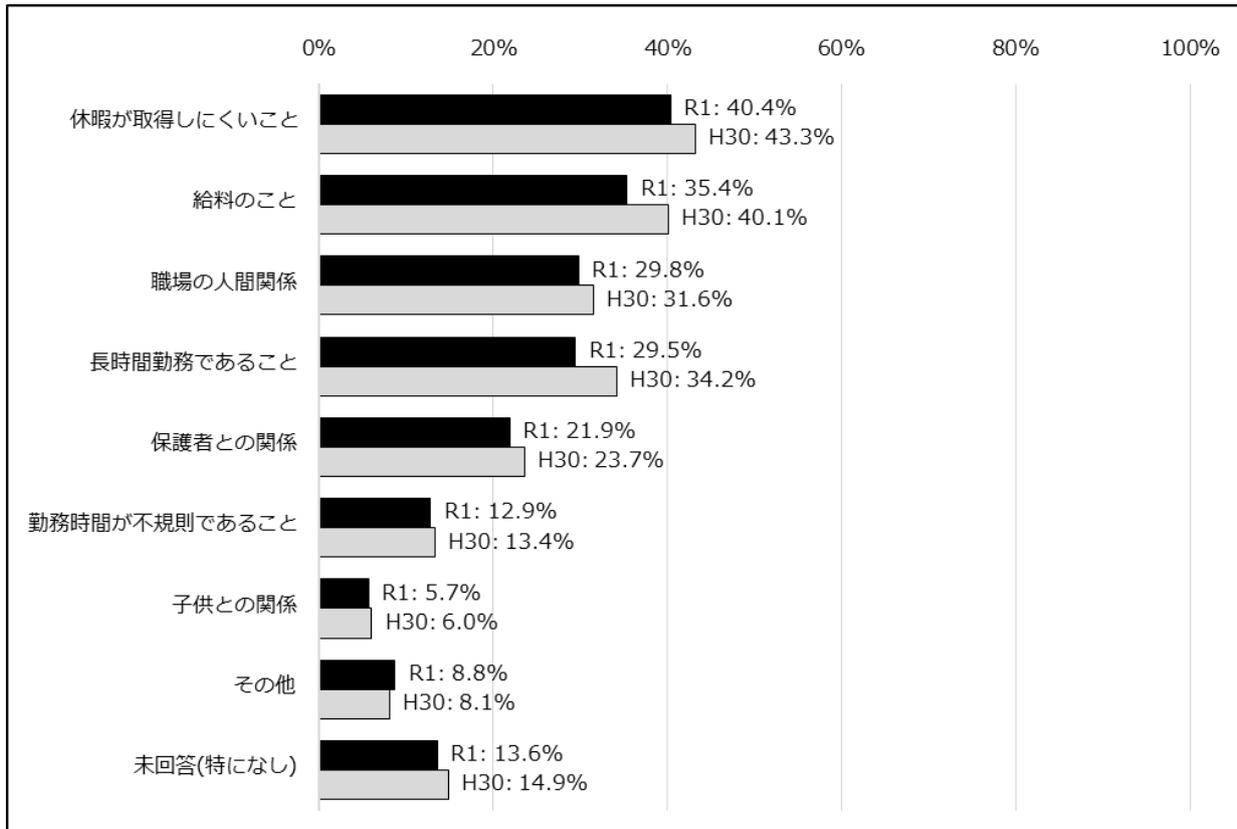
健康・医療、実技指導、保護者対応、保育を取り巻く全国的な動向 等

【概要・考察】

- 昨年度と同じく「障害のある幼児の理解」を受講したい内容として答えた割合が最も高かった。
- おおむね、昨年度と受講したい内容の順位に変化はないものの、「環境の構成」、「安全に関する指導」の数値が増加した。

5 職業上の悩みについて【全員回答】

働く上で悩んでいることがありましたら、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



【その他の主な内容】

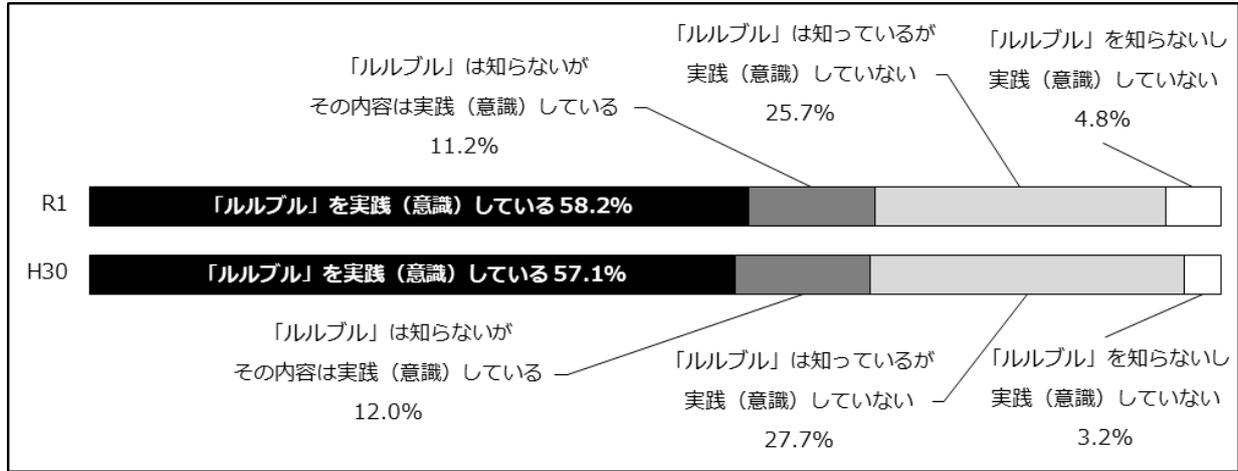
職員不足、勤務時間内にできる業務量を超えていること、園・所の運営、自身のライフ・ワーク・バランス 等

【概要・考察】

- 昨年度と同じく「休暇が取得しにくいこと」を理由として答えた割合が最も高かった。
- 一方で、回答の数値が昨年度からそれぞれ減少したことから、それぞれの悩みが減少傾向にあることがうかがえる。
- 保護者対象のアンケート内「ライフ・ワーク・バランス」の設問結果においても、同じく改善傾向がみられた。
- 今後、このような傾向とも関連づけながら、「学ぶ土台づくり」推進計画の施策を引き続き啓発する必要がある。

6 「ルルブル」について【全員回答】

子供の基本的生活習慣の確立に向けた「ルルブル」の取組に関して、御自身の教育・保育における取組状況についてお答えください。

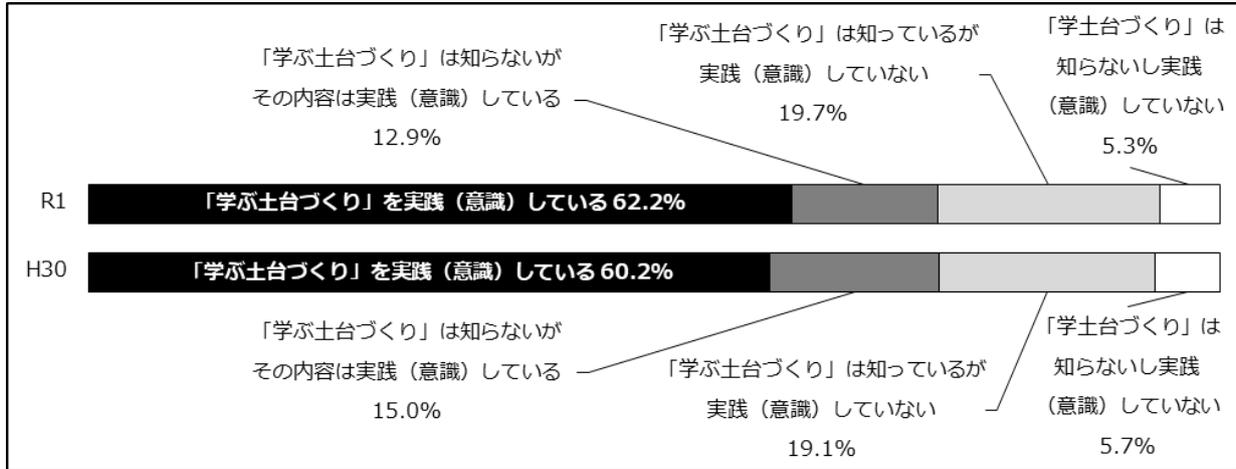


【概要・考察】

- 「ルルブル」の取組を「実践（意識）している」、「知らないが、その内容は実践（意識）している」と答えた割合は、昨年度から0.3ポイント増加したことから、多くの施設で前向きに取り組まれていると考えられる。
- また、「知っているが、実践（意識）していない」と答えた割合が、昨年度から2.0ポイント減少し、改善傾向がみられるが、子供の生活基盤となる睡眠や食事等について意識されていないことが懸念される。
- 一方で、「知らないが、その内容は実践（意識）している」、「知らないし、実践（意識）していない」と答えた割合が、16%だったことから、引き続き、普及啓発から実践につなげる取組を行う必要がある。

7 「学ぶ土台づくり」について【全員回答】

幼児教育の充実に向けた「学ぶ土台づくり」の取組に関して、御自身の教育・保育における取組状況についてお答えください。



【概要・考察】

- 「学ぶ土台づくり」の取組を「実践（意識）している」、「知らないが、その内容は実践（意識）している」と答えた割合は、昨年度から0.1ポイント減少したものの、多くの施設で積極的に取り組まれていると考えられる。
- また、「知っているが、実践（意識）していない」と答えた割合が、昨年度から0.6ポイント増加した。
- 一方で、「知らないが、その内容は実践（意識）している」、「知らないし、実践（意識）していない」と答えた割合が、18.2%だったことから、引き続き、普及啓発から実践につなげる取組を行う必要がある。